

過活動膀胱に対する投薬の選択に影響する因子の検討及び継続性の評価 に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年1月26日～2025年12月31日

〔研究課題〕

実臨床における過活動膀胱に対する投薬内容の選択に影響する因子の検討及び継続性の評価について

〔研究目的〕

今回の研究の目的は、我々が実際の治療に際して処方している抗コリン薬と $\beta 3$ 作動薬の実態とその使い分けに影響する因子を明らかにし、より効果的な薬を投与するための知見を得ることです。

〔研究意義〕

過活動膀胱の治療の根幹は、我が国では薬物療法であり、中でも抗コリン薬は第一選択薬となります。近年、抗コリン薬とは全く作用機序の違う $\beta 3$ アドレナリン作動薬が出てきており、その効果が認められてきています。本邦の過活動膀胱診療ガイドラインでもこれらの薬は推奨グレードAとなっています。

我々臨床医は、過活動膀胱患者に対して、治療効果が同等であり、推奨グレードAのこれらの薬をどのように使い分けて投与しているのでしょうか。また使い分けに影響する因子は存在するのでしょうか。しかしながら、抗コリン薬と $\beta 3$ アドレナリン作動薬の使い分けに関しては今まで報告されていません。

今回の研究においては、実臨床での抗コリン薬と $\beta 3$ アドレナリン作動薬の実態とその使い分けに影響する因子を明確にし、より効果的な薬を投与できる可能性があります。またそれぞれの1年継続性を評価します。症状に合った薬を投与することで、患者さんの満足が得られ、内服継続に繋がることも期待できます。

〔対象・研究方法〕

2010年4月から2015年12月まで帝京大学ちば総合医療センターの泌尿器科において、過活動膀胱の診断で抗コリン薬もしくは $\beta 3$ アドレナリン作動薬を投薬された患者さんを対象とします。

研究のデザインは、後向き観察研究となります。

研究・調査項目：年齢、BMI (Body Mass Index)、投与前過活動膀胱症状スコア (OABSS)、投薬内容、投与前残尿量、既往症、生活嗜好の有無について、当院の電子カルテから情報を抽出します。

〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科

研究責任者

納谷 幸男 帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科・教授

住所 〒299-0111 千葉県 市原市 姉崎 3426-3 電話番号:0436-62-1211(代)

〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、患者さん個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。患者さんからご自身の情報開示等の請求は個々に対応いたします。

帝京大学で保管するデータについては、研究終了後に倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究セン

ター(TARC)で10年保管後破棄します。また、加工された情報について、研究対象番号と個人情報との照合に用いる対応表の保管についても同様とします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名納谷 幸男 職名 帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科・教授
研究分担者:氏名巢山 貴仁 職名 帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科・講師
所属: 帝京大学ちば総合医療センター
住所: 〒299-0111 千葉県 市原市 姉崎 3426-3
TEL:0436-62-1211 (代表)〔内線 5338 〕